

8月 いわがに

詞 /五十野惇

- ★ すばしこいったら ありやしない  
すばしこいったら ありやしない  
にげるよ にげる いわがに めーっ  
おこって はさみを ふりあげる
- ★ にくらしいったら ありやしない  
にくしいったら ありやしない  
にげるよ にげる いわがに めーっ  
おこって ぶくぶく あわを ふく



学生のブログコメントから

この詩も元気に遊べそうです♪子どもたちを2グループ（人間グループといわがにグループ）に分けます。子どもたちの胸くらいの高さの壁を間に置きます。（岩とみたてるもの）  
\*事前にこどもたちには、紙に絵を描いてもらいます。人間チームは人の絵を、いわがにチームはいわがにの絵を☆それを体にぶら下げます。紙を狙ってみずでっぼうを打ち合う遊びです♪「すばしこいったらありやしない すばしこいったらありやしない」のところで、まず人間チームがみずでっぼう攻撃をします。今度は、「にげるよ にげる いわがに めーっ おこって はさみを ふりあげる」でいわがにチームがみずでっぼう攻撃をします。自分の紙が破けてしまったらゲーム終了です♪

この詩を歌いながら、イワガニになりきって踊ったら楽しいと思います。「すばしこいったら ありやしない」・・・みんなで元気よく走り回ります。「にげるよ にげる いわがに めーっ」・・・先生が子供を追いかけて子供たちは捕まらないように逃げます。「おこって はさみを ふりあげる」・・・「おこって」で口を膨らませ、「はさみを」で両手をカニのようにピースして、「ふりあげる」で両手を高くいっぱい伸ばします。

「にくたらしいったら」・・・右手であっかんべー

「ありやしない」・・・左手であっかんべー

「にげるよ にげる いわがに めーっ」・・・同様に先生が追いかけて、子供たちが逃げます。

「おこって ぶくぶく あわを ふく」・・・「おこって」で口を膨らませ、「ぶくぶくあわをふく」で手をグーにして顔の前で両手をふります。

リズムに合わせて踊ることで、イワガニの特徴を楽しく学べると思います。カニとカニを捕まえる人を決めて鬼ごっこのように遊んでみるといいと思います。カニは横にしか動くことができません。捕まえる側は自由に動けます。時間を決めて時間内に全てのカニを捕まえられたら、捕まえる側の勝ち。時間内にカニを捕まえられなかったらカニの勝ちです。

カニのすばしっこい所や、はさみを振り上げる所、泡をブクブクさせる所など楽しく面白く歌にしてあってすごくいいなと思いました。カニのお面をおでこらへんにくっつけて、カニの真似（歩き方など）をみんなでしたら楽しいと思います。」

ありやしないというところがとても楽しいと思いました。かにの面白さが全面にでていて、とってもユニークですね！子どもに聞かせたらみんな興味津々になると思いました。

基本は鬼ごっこで、まず、いわがにグループと人間グループにわけます。「すばしこいったら ありやしない」を人間グループのこども達が言いながらいわがにグループのこども達を追いかけます。次に、「にげるよ にげる いわがに めーっ」といわがにグループのこども達が言いながら反撃（追いかける）します。これを交互にくりかえしてみんなで遊びます。事前におめんなどを作るともっと楽しくなるとおもいます。

すばしこいったら ありやしないというところと、にくらしいったら ありやしないというところを2回繰り返しているところがいいですね。めーっというところも個人的に好きです。子どもたちにはリズムよく読んであげたいです。短い詩の中にもカニの特徴がきちんと出ていると思いました。

8月 いしだたみ 詞 /五十野惇

- ★ はい いしだたみ  
いしを ならべた どうろ みたい
- ★ はい いしだたみ  
いわの くぼみで みーつけた
- ★ はい いしだたみ  
はい いしだたみ



## 学生のプログコメントから

小さい頃、海に行った時によく見付けていましたが、その名前がいしだたみだということを知りました。「はい」というところは、手を叩いたり「いしだたみ」のところは、おしくらまんじゅうのように集まってみたらいいと思いました。

「はい」のところで手を合わせて「いしだたみ」のところで首をゆっくり左右に動かしたりすると楽しいかなと思いました。

何度か海の岩で見たことあったけど名前は今はじめて知りました。岩にはりついていて、なおかつ岩の色に貝が似ているので見つけにくいです。

いしだたみの面白さが伝わってきます。どうろみたいな例え方が、こどもは面白いと思うと思います。

石のふちにたくさんついているいしだたみをみるとまるで道路のように見えます。いしだたみは、とっても小さいけれど頑丈そうなのでとてもかわいいです。

### 8月 いそぎんちゃく

詞 /五十野惇

- ★ しおだまりの そと  
ほら！ はなの つぼみ  
じっとしてさ だれを まって いるの  
いそぎんちゃく
- ★ しおだまりの なか  
ほら！ はなびらのよう  
ゆらゆら させてさ つかまえたよ さかな  
いそぎんちゃく



## 学生のプログコメントから

水族館などでよく見かける不思議生物です。私はいそぎんちゃくといわれると「ゆらゆら」揺れているという印象です。この詩では、しおだまりの「そと」と「なか」ではいそぎん

ちゃくの姿が変わる様がとてもよくわかって面白いと思います。「はな」に例えることで子どもたちにはわかりやすいようになっているのがかわいらしいと思いました。

この歌は、親子で遊んでもらったら良いのではないかなと思います♪子どもがおさかなで、親がいそぎんちゃく役です☆親御さんにはいそぎんちゃくの格好をしてもらい、体を丸めて待っていてもらいます。子ども達は、曲の1番が流れている間に親を探します。自分の親だと思ったら、その人の前でおさかなのように踊ります。曲の2番になったら、親御さんは、体を揺らしながら少しずつ広げていきます。子ども達は、元気に踊ります！！「つかまえたよ さかな」の部分になったら、親は自分の子どもを抱きしめます。この時、もしも子どもが親を間違えてしまったら・・・いそぎんちゃくから逃げます♪見つけるのは少し難しいかも知れませんが、見つけられたらとても嬉しい遊びだと思います☆（お母さん、お父さんに抱きしめてもらえるので♪）

この歌では、まず子供たちを二つのチームに分けます。いそぎんちゃくチームとさかなチームです。そうしたら、まずいそぎんちゃくチームに全部違うマークが書いてあるカードを配ります。その次に、さかなチームにもいそぎんちゃくチームと同じカードをくばります。さかなチームはカードをもらったら教室中バラバラにすわります。準備ができれば歌スタート！！

二番の「つかまえたよ さかな」のフレーズまでに、いそぎんちゃくチームは、同じカードを持っているさかなチームの人を見つけてつかまえるゲームです。簡単なゲームだけど、ちょっとした宝探しみたいで、おもしろいかなあと思いました。

このお話は、ゆらゆらしたいそぎんちゃくを、ひらひらしたおはなに例えているので、誰かを待っていたり、さかなを捕まえたりするいそぎんじゃくを、子どもたちは想像しやすいと思います。誰を待っているのかを考え、みんなで意見を出し合ったり、おはなだったら、何を待ち、何を捕まえるのかを想像してみるのもいいと思います。また、いそぎんちゃくとさかなの海チームと、おはなとはちなどの野原チームとに分かれて、どろけいや、かくれんぼ、フルーツバスケットなど、いろいろなゲームをやってみると、面白いと思います。いそぎんちゃくやおはなのことを学ぶと同時に、集団の中で（チームになって）何かをすることの楽しさも分かってもらえたらと思います。

この詩を使ってあそぶとしたら、歌に合わせてハンカチ落としのようにすると楽しいのではないかなと思いました。一人鬼を決めその人以外でみんなで円になって、目を閉じて座ります。そして鬼の人はいそぎんちゃく、円になっている人は魚と見立てます。鬼のイソギンチャクの人は一人さかなを狙いその人に目印を置き、歌が終わるまで気づかなかつたらその魚はイソギンチャクにつかまってしまい、鬼を交代するというゲームです。

8月 うに 詞 /五十野惇

- ★ くりの いがに にている うに  
ましたに あしが あって  
いわばを あるくよ
- ★ くりの いがに にている うに  
ましたに くちが あって  
かいを たべるよ
- ★ たべられるよ うに うに



### 学生のプログコメントから

うには本当に栗に似ていますよね！あまり生きているうにを見たことありませんがテレビとかに映っているのを見たりしておもいました。このお話を読んで初めて知ったことは真下に足があるということです。刺を動かして動いていると思っていたのでビックリしました！今度よく見てみたいと思いました。

今の子供たちはうにといえば、お寿司のオレンジ色のうにしか知らないかもしれないから、『栗のいがいがと似てるんだよ』と教えてあげたらわかりやすいと思いました。

この歌での遊び方は、教室を海に見立てて、紙で作った貝やイカやタコをばらまきダンボールで作った岩などをおいて、子供たちは四つんばいになって背中に折り紙で作ったとげをはっつけてうにになります。そして先生が『貝を食べろ〜！』と言ったら、貝を拾いに行くゲームをしたら楽しそうだなと思いました。

普段うにを見るときはオレンジ色した中身を見ることが多いです。子どもたちに本当のうにの姿を見せたらびっくりすると思います。栗のいがによく似ているし、足があって口があってこれが海の中で生活してると思わないでしょう。きっと驚くことがいっぱいのお話だと思います。最後の「うに うに」というのがなんだか可愛く聞こえます。

教室を海のようにみんなで装飾します。跳び箱などを置いて岩場に見立てたり、平均台なども使って障害物を作ります。子どもたちはウニになりきって障害物を乗り越えた先にあるうにの食料の貝を取りに行く遊びをしたら楽しんでもらえるんじゃないかと思いました。楽しみながら体も動かせます。



8月 うのあし 詞 /五十野惇

- ★ とりの あしあと じゃないよ  
いわに くい ついて いる かい  
「はい うのあしです」
- ★ みずの なか すーい およぐよ  
のりを さがして たべるんだ  
「はい うのあしです」



### 学生のプログコメントから

夏になると海へ行きます。海の岩にいっぱいついてるうのあしを見て生きてるの？と思われれます。実際私もそう思いお話しを読んで水の中をすいすい泳ぐと知り想像が付きません。生き物って面白いなあと、改めて思いました。「はい うのあしです」というところが可愛らしくていいと思いました。

わたしは『うのあし』という生き物を始めて知りました。確かにとりの足に似てると思いました。きっと、子どもたちはこれを見て『アヒルの足だ』とか言いそうだから、『これはこうゆう形の貝だよ。』って、ちゃんと教えてあげたいと思いました。今年は海に行くので、うのあしを見つけてみたいと思います。

私だったら「じゃないよ」の部分で手を横に振り、「みずの なか すーい およぐよ」の部分で泳ぐまねをしながらいろいろなところへ動き、「たべるんだ」の部分で近くにいる人を食べるという振り付けをつけたいなおもいました。

8月 ひとで 詞 /五十野惇

- ★ ひとでは 「ひー」  
てを のぼす 「とー」  
のぼし のぼして  
かいがらを つかまえた 「でー」  
すばやい やつ  
かいがらに まきつく ひとで
- ★ ひとでは 「ひー」  
くちを のぼす 「とー」  
すいつき すいつく  
かいがらに すいついた 「でー」  
すばやい やつ  
かいがらを とーかす ひとで



### 学生のブログコメントから

とても面白くてコミカルな歌だと思いました。私の提案する指導案は実際に子どもたちとヒトデになってみるというものです。手足をいっぱい伸ばして、ヒトデになったつもりで体を動かしながら歌うと運動にもなるしいいのではないかなあと思いました。かいがら役の人を作って、実際にまきついたりしてみるのも楽しいかもしれません。

大きい紙(模造紙など)にクレヨンや色鉛筆を使ってみんなで海の中の絵を書きます。岩、海草、サンゴ、砂、魚など子供たちの好きなように書いてもらいます。大きい紙に海の世界が出来上がったら、先ほどのヒトデや貝がらを海の中の好きなところに貼り付けます。そのときにヒトデが貝がらにすいついている様子なども表現できたらいいと思います。完成したものを保育室や廊下の壁に貼ったら、自分たちで作った海の世界をいつでも見ることができ、とっても楽しい気持ちになるとと思います！！

この歌では、子供たちにひとでは早く動くことができ、貝殻に巻き付き、溶かすことができるということを知ってほしいです。実際私がこの歌を歌うなら、まずうたを歌うまえに、「ひー」「とー」「でー」の三つのポーズを決めて、子供たちに教えます。そうしたら、歌いながら歌詞にあわせてポーズをとっていきます。こんなちょっとしたことだけれど、少し体を動かすことによって、この歌に興味をもってくれたらいいなと思います。

いつもは頭文字でやることを語尾にするというアイディアは初めてなので面白いと思いました。いつもやっていることとは反対のことをするのもいいと思いました。

ひとでは形が星に似ていて、人気がある動物だと思います。人の手のひらにも形が似ているので、軍手などに好きな模様を描いてひとでの手遊びができれば楽しいと思いました。

かわいい詩ですね！てをのぼす「とー」というところは実際に手を伸ばし、かいがらをつかまえた「でー」というところも貝殻を捕まえる感じで、身振り手振りをするといいと思います。ひとでが貝殻を溶かすというのは初めて知りました。詩を見ただけで、ひとでのがすぐに明確にわかり、すごいと思いました。

8月 やどかり 詞 /五十野惇

かに じゃないよ  
えび じゃないよ  
かいがらを おうちに している  
いきもの なーに？  
「はい やどかりです



## 学生のプログコメントから

『かにじゃなくて、えびじゃない。かいがらかぶってる。』やどかりを子どもたちにどういう生き物が教える時に、あいまいかもしれないけど、こう言ってあげれば子どもたちは想像力豊かだから伝わるような気がします。この文みたいに、子どもたちにクイズの様にしながら、教えてあげるのも楽しいと思いました。

やどかりの一番特徴的な『かいがらのおうち』は子どもたちも想像しやすいので、やどかりをすぐに覚えられていいと思います。一人ひとりがひとつずつ短い歌に、問いかけの言葉を入れて歌を作って、折り紙や画用紙でそのものを作って発表しあったら楽しいと思いました。

子どもたちがこの詩を聞いて、実際に見ることができたら「これがやどかりなんだ。」言ってくれたら思いました。あと、「かいがらかぶってる」のところで、どんなのかぶってるの



かな？などと子どもたちが想像をめぐらして紙に書いてみるというのも楽しんでできるのでは？と思いました。

やどかりって面白い生き物だなあと改めておもいました。確かにかにみたいでもありエビみたいでもあり・・・何で貝殻を次から次へと転々としていくのかなあ。と考える歌でした。しかも、最後がクイズになっているので、「はい、やどかりです」を歌う子とその前までを歌う子に別れて歌うとおもしろいと思いました。

やどかりジャンケンという遊びを思いつきました。ダンボールか何かで1人1つお家を作ります。そして先生の合図で皆が四つんばいになってさまよい、ぶつかった人とジャンケンをします。負けたらお家を捨てて、他の人のお家を狙い自分のお家を求めてさまよいます。これは終わりがありませんがとても楽しいゲームだと思います。

「かいがらのおうち」というのがとてもおしゃれで印象的だと思います。「かに」「じゃないよ」「えび」「じゃないよ」と区切っているところも、つなげるよりずっと歌いやすくかわいく聞こえると思います。やどかりの「かいがらのおうち」は、狭い所や隠れるのが好きで、好奇心旺盛な子ども達にとってとても不思議で魅力的なものなのだと思います。だから「やどかりごっこをしましょう」といって部屋中の狭いところにみんなで隠れてみましょう。そしてたまに「かいがら」の中から顔をだしたりひっこめたりして、そんな単純な遊びもたのしいとおもいます。やどかりの気持ちがわかるかもしれませんね。

こどもって、なぞなぞ大好きですね。特に、単なるとんちじゃなくて、このような自然のことがいつのまにか身につくものいいですね。わたしなら、貝殻をおうちにしている生き物がまだいます、なーに？と、もうひとつなぞなぞ！答えはかたつむり☆でも、ザリガニやえびが貝殻に入ったのがヤドカリなんじゃなくて、ナメクジが貝殻に入ったのがカタツムリじゃなくて、みんな別々の生き物なんだって、教えたいです。